

NEWS LETTER

2025.
Vol.7
水無月号

HAPPY PRIDE！今月はプライド月間ですね！当会はどなたでも無料で参加＆後日配信を視聴できる「性と生き方の多様性講座」を毎月開催しています。SHG（セルフヘルプグループ）として「にじいろお話し会」も毎月開催しています。（これからの講座のテーマや日程、お話し会の日程などは当会ホームページをご覧ください。）半年に一度、ニューズレターを発行しています。LGBT関連の注目すべきニュースとして、ここ半年間で、以下のようなものがありました。

★全国5か所で行われている、注目の「結婚の自由をすべての人に」裁判ですが、3月25日、大阪高裁は「（同性どうしの結婚が認められないことは）憲法に違反する」と、1審とは逆の判断を示しました。これで違憲判決は全国で5例目となりました＼(o^o)／ 最新の裁判の動向は「マリッジフォーオールジャパン」のサイトをご覧ください♡

★3月31日、一般社団法人LGBT法連合会による、第4版「LGBT困難リスト」が発表されました！ ➡

★千葉県市川市は、婚姻やパートナーシップ関係を結ぶ前の39歳以下のカップル（同性カップル含む）への経済的支援として、全国初の「市川プレウェディング事業…結婚準備・新婚生活住まい応援事業」を4月1日よりスタートしました。2月の記者会見で、田中市長は、米・トランプ大統領の多様性を否定する発言に触れたうえで、「LGBTQも認めていく社会が市川市にはあると考え、作った」と述べました。

★自民・公明・日本維新の会・国民民主の4党が共同提出していた、特定生殖補助医療法案（第三者の卵子や精子を用いる不妊治療）ですが、同性カップルや事実婚のカップルが対象外であることや、子どもの出自を知る権利が制限されたり、異性婚カップル以外にこの不妊治療を施した医療従事者に罰則があるなど、関係者より多くの問題を指摘されていました。6月中旬、無事、廃案が決定しました。

2025年1月～6月まで、当会は以下の6つの講座を開催しました



LGBT困難リスト

性と生き方の多様性講座

「生まれついで、身体が多様性
～性分化疾患を生きて～」

2025年1月13日(月祝)

14時～16時(13時半開場)

調布市文化会館 たづくり映像シアター

参加費無料 後日配信あり

講師 森下ゆうきさん

元・JNI共同代表 (Japan Network of Intersex)

↑ 1月は、性分化疾患当事者の森下ゆうきさんが講師でした。講座を視聴された多くの医療従事者からの、あたたかな感想がいくつも寄せられました。

性と生き方の多様性講座

「共に歩む行政のあり方
～くにたち市男女平等参画
ステーション・パラソルの
とりくみ～」

参加費無料

2025年2月1日(土)

18時～20時(17時半開場)

調布市文化会館たづくり映像シアター

後日配信あり どなたでも受講できます
後日配信のみのお申し込みも大歓迎



講師 パラソル
くにたち男女平等参画ステーション・
パラソル ステーション長
木山直子氏

↑ 2月は、2018年に日本初のアウティング禁止条例を制定した国立市の取り組みについて、国立男女平等参画ステーション長の木山さんより学びました！

性と生き方の多様性講座

「トランス女性が
ファッションで“世界”を変える」
2025年3月20日(木祝)

14時～16時(13時半開場)

調布市文化会館たづくり

映像シアター

後日配信あり 参加費無料



講師 つーさん氏

トランスジェンダー女性。
ファッションコンサルタント。
乙女塾ファッション講師ほか。

↑ 3月は、乙女塾のつーさんが講師でした。その人らしいファッションがその人の“世界”を素晴らしいものに変えていくという、勇気をもらえるお話でした♡

UPDATE HIV

～性の健康と心の健康～

2025年4月19日(土)

14時～16時(開場13時半)

調布市文化会館たづくり

映像シアター

講師 生島 嗣 氏

いくしま ゆずる

認定特定非営利活動法人

ぶれいす東京 代表

後日配信あり 参加費無料



↑ 4月は、日本のエイズ支援のパイオニア、ぶれいす東京の生島さんによる、U=U、PrEPといった、HIVに関する最新情報のお話でした！情報のUpdateにより偏見が払しょくされた、との感想が多数寄せられました。

性と生き方の多様性講座

『LGBT』ムーブメントと
バックラッシュ

2025年5月11日(日)

14時～16時(開場13時半)

講師 松岡宗嗣 氏

そうし

一般社団法人fair代表理事

著書『あいつゲイだってー
アウティングはなぜ問題なのか？』（柏書房）
共著『LGBTとハラスメント』（集英社新書）



調布市文化会館たづくり映像シアター

↑ 5月は、日本の若き論客、松岡宗嗣さんが、胸が熱くなるお話で会場を魅了しました。彼の存在は文字通り日本の宝、まさしく令和のリーダーです！！

性と生き方の多様性講座

「人の脳はグラデーション
～最新の脳科学から～」

2025年6月21日(土)

14時～16時

(開場13時半)

調布市文化会館たづくり 映像シアター

講師 塚原伸治先生

埼玉大学 教授



後日配信あり 参加費無料

↑ 6月は脳科学の貴重なエビデンスを元にした、アカデミックな講座でした。埼玉大の塚原教授が、大変分かりやすく、かみくだいて説明してくださいました。

リレーコラム トランス女性が受ける性被害…痴漢被害に遭って思うこと

【最初にご確認ください 「トランスジェンダー」の定義】

トランスジェンダーは何らかの形で性別を移行している人の総称で極めて広い概念です。これを曖昧にして論を進めると誤解を生じたり真意が伝わらなかったりします。このコラムでは、トランスジェンダーということばを「性別不合（性同一障害）であり、専門医の診断等、他覚的認知を得ている人」という狭い意味で使いますのでご了承ください。

先日、埼玉県内を走行中の電車で痴漢被害に遭いました。

猛烈な恐怖でした。抵抗できなかった自分に対する自責の念が強く、深刻なダメージを受けています。しかし、そこで見てきたことも多いのです。自分の気を落ち着かせるためにも、性犯罪についての考えを整理しておくのが良い。また、トランス独特の悩みについても明らかにすべきと考えました。

1. 被害の状況は以下です。

ボックス席向かいの南アジア系と思われる中年男性から異様な視線。そして合掌して私を拝み、その直後に唾を吐きかけ手を触ってきた。恐怖で固まり、「やめてください」と声を上げることすら出来ない。幸いに隣席の男性が制止してくれたので、長時間に及ぶことはありませんでしたが、次の停車駅で逃げることに出来ませんでした。

2. シス女性※と変わらないことが3つありました。

★抵抗できないこと

性犯罪の二次被害で「なぜ抵抗しなかった」「同意していたのではないか」と言われて被害者が責められることがあります。これがよく分かりました。「恐怖で固まり動けない」ということを心から実感できたからです。

★脅迫症状

被害者は繰り返し何度もシャワーを浴びるという行動をすることが知られていますが、私も一刻も早く触られた手と唾を飛ばされた顔を洗いたくて、普通列車を乗り継いで帰る予定でしたが、新幹線に乗り換えしました。新幹線の洗面所では、石けんで手や顔を洗うことが出来るからです。ただ、この洗うという行為は証拠を消してしまうため、加害者を特定し処罰するためには不都合です。より深刻な被害の場合、検体の採取は立件するための重要なポイントになります。実際には洗い流さないことは心理的に難しいため、大きなパラドクスだと感じました。

★自責の念

抵抗できず通報できなかった自分が情けない。日本では性犯罪の認知率は14%と推定されています。86%が泣き寝入りをしているということです。しかし、あらゆる犯罪において、立件し処罰することが最大の抑止力になります。認知率の低さは深刻な問題です。確実に被害申告のできる社会になって欲しいと切に願います。 ♪



【ご存じですか？6色の理由】

LGBTQ+の尊厳と社会運動を象徴するレインボーフラッグには、それぞれの色に意味があります。

赤（命） 橙（癒し） 黄（太陽）
緑（自然） 青（調和） 紫（精神）…。

レインボーフラッグは1970年代にサンフランシスコで生まれました。当時は8色でしたがゲイ・パレード時に大量に旗が必要となり、当時の印刷技術の問題により8色から6色に落ち着いたと言われています。調布市の市制70周年にあたる2025年、プライド月間であるこの6月に、調布市文化会館たづくりの壁面に初めて6色のライトアップが登場しました！企画してくださった多様性社会・男女共同参画推進課の皆さん、ありがとうございます！！

【編集後記】 本で行われたSHGにじろお話会で、ある会員さんのご発言により、弊会是人権（命）や人の尊厳を取り扱う会である、という基本の思いを新たにすることができました。どんな声も大切にしたい、よりそいたい、そのために学び続けたい、と思いました。（榎木）

3. トランス女性であるが故の深刻さが2つあります。

★トランス女性がさらされている二重の危機

およそ女性性は性被害を受ける危機にさらされています。それはシス女性もトランス女性も同じです。ところが、トランス女性性はトランスであることを見抜かれると、それを理由にさらに性被害を受ける可能性があり、二重の危機を背負わされています。東京都の学校におけるいじめ調査において、セクシャルマイノリティはいじめを受けやすいことが明らかになっていますが、中でもトランス女性は最もいじめに遭いやすいのです。

ところが、「トランス女性がシス女性の脅威になっている」という言説が流れています。トランス女性と自称する男性が性加害を犯すことがあるので、それと外見の区別がつかないトランス女性性は排除すべき存在であるという訴えです。これは、トランスを詐称する犯罪者の責任をトランス女性性に転嫁するもので、不当な差別にほかなりません。トランス女性とは似て非なる方々（趣味的女装者、ドラッグクイーン、女装するゲイ、職業的に女装をする人等）は比較的広く社会に知られています。多くのトランス女性のリアルは可視化されていないので、おそらく、トランス女性は一見して男性であると分かるような外見をしているという誤解があるのだと思われます。トランス女性のイベントに初めて参加したシスの方は「みんな女の子っぽいんですね」と言うことが少なくありません。

★アンコンシャスバイアス

性暴力は「男性が女性に対して行うもの」という思い込みがあります。しかし実態は違います。世間を騒がせたジャニーズ事務所の問題は加害者も被害者も男性です。件数は少ないですが女性が加害者のこともあります。「どうせ男なんだから」と言ってトランス女性に危害を加える者がいます。トランス女性を女性として認めないという差別とともに、男性に対しての攻撃は性暴力ではないという思い込みがあるのです。深刻なアンコンシャスバイアスの一つです。

2017年の法改正で強姦罪が強制性交等になりました（現在は不同意性交等）が、これによって被害者の性別にかかわらず処罰されるようになりました。不十分ながら法律が実態に追いついてきているのだと思います。

4. 明日に向かって思うこと

3月に行われたGI（性別不合）学会では、「可視化が重要」という主張と共に、「トランス女性への差別はシス女性への差別の延長上にある」という主張も多くみられました。ジェンダー平等が実現しないとトランス差別は解消しないし性暴力も無くなりません。シス女性が暮らしやすい社会の実現、それがトランス女性の願いでもあるのです。（福島県在住 ゆり）

※シス女性…トランス女性ではない女性。生まれつきの身体が女性で、身体不合がない女性。



※紫色は、建物の角部分で離れています

【会員募集中】 当事者の方やアライ、アライになりたい方、性の多様性に関心のある方、仲間になりませんか？



2025年6月22日発行 NEWSLETTER vol.7 水無月号
(一社)調布LGBT&アライの会 <https://chofulgbt.com/>
事務局/〒182-0011東京都調布市深大寺北町4-13-51
マザリーズ助産院内 榎木めぐみ 090-3535-9227